

梅香小学校敷地複合施設のあり方市民会議意見のまとめ

平成26年10月

はじめに

- ・ 尼崎市では、古くなった中央公民館の建替えと廃止になった労働福祉会館のホールの代わりを確保するため、梅香小学校敷地に中央公民館と多目的ホールの複合施設を建設する予定としております。施設の内容を検討するにあたって、市民の意見を聞く場として「梅香小学校敷地複合施設のあり方市民会議」がつくられました。
- ・ 中央公民館は、地区住民が身近に利用できる施設であるとともに、尼崎市の生涯学習・社会教育の推進拠点でもあります。市民会議では、中央公民館の充実・強化を図りながら、多目的ホールとの一体的な利用の仕方も想定し、市民の目線から将来を見据えた理想の施設像について意見交換を行いました。

中央公民館

+

多目的ホール

複合施設

1. 複合施設を考える

公共施設の多くは、高度経済成長期に人口の増加などに対応して建てられたために、現在、老朽化が進んでおり、それが国や地方自治体において大きな課題となっています。そうしたなか、尼崎市においては、今年6月に「公共施設マネジメント基本方針」をとりまとめました。そこでは、「経済的なコストで、適量で良好な品質の施設の提供」を目指し、施設の廃止や複合化、機能の統合などにより、床総量を削減し、併せて市民サービスの維持向上にも取り組み、健全な財政と良好な施設環境を将来の世代に引き継いでいこうとしています。今回、検討する複合施設もその取組の一環です。

ここで目指す「複合化」は、単なる施設の寄せ集めではなく、異なる機能を持つ施設を同じ空間に存在させることで、賑わいの創出や利用者の交流促進など施設間の相乗効果を期待するものです。

市民と行政が一緒につくり上げた尼崎市総合計画では、「ありたいまち」の実現を目指して、「ひと咲き まち咲き あまがさき」をテーマにまちづくりを進めていくこととしています。

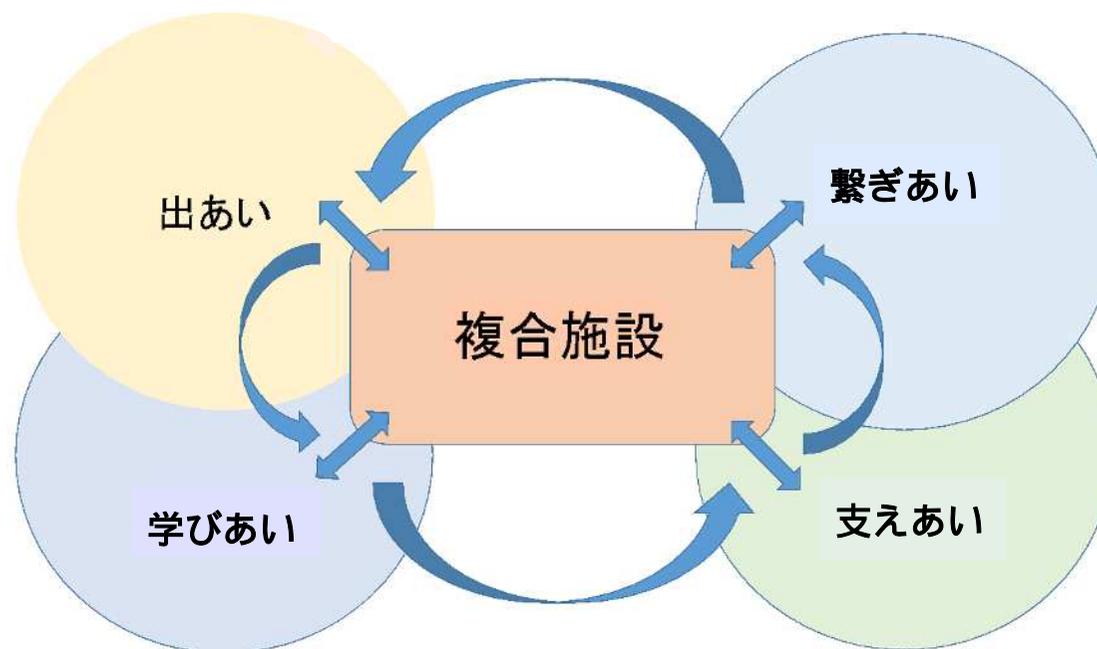
市民会議では、梅香小学校の敷地に建てる複合施設について、市民が支えあい、そして、一人ひとりが成長し、活躍して、まちに活気を生み出していく、そういうまちづくりの一翼を担う施設にするにはどうすればよいかを考えました。

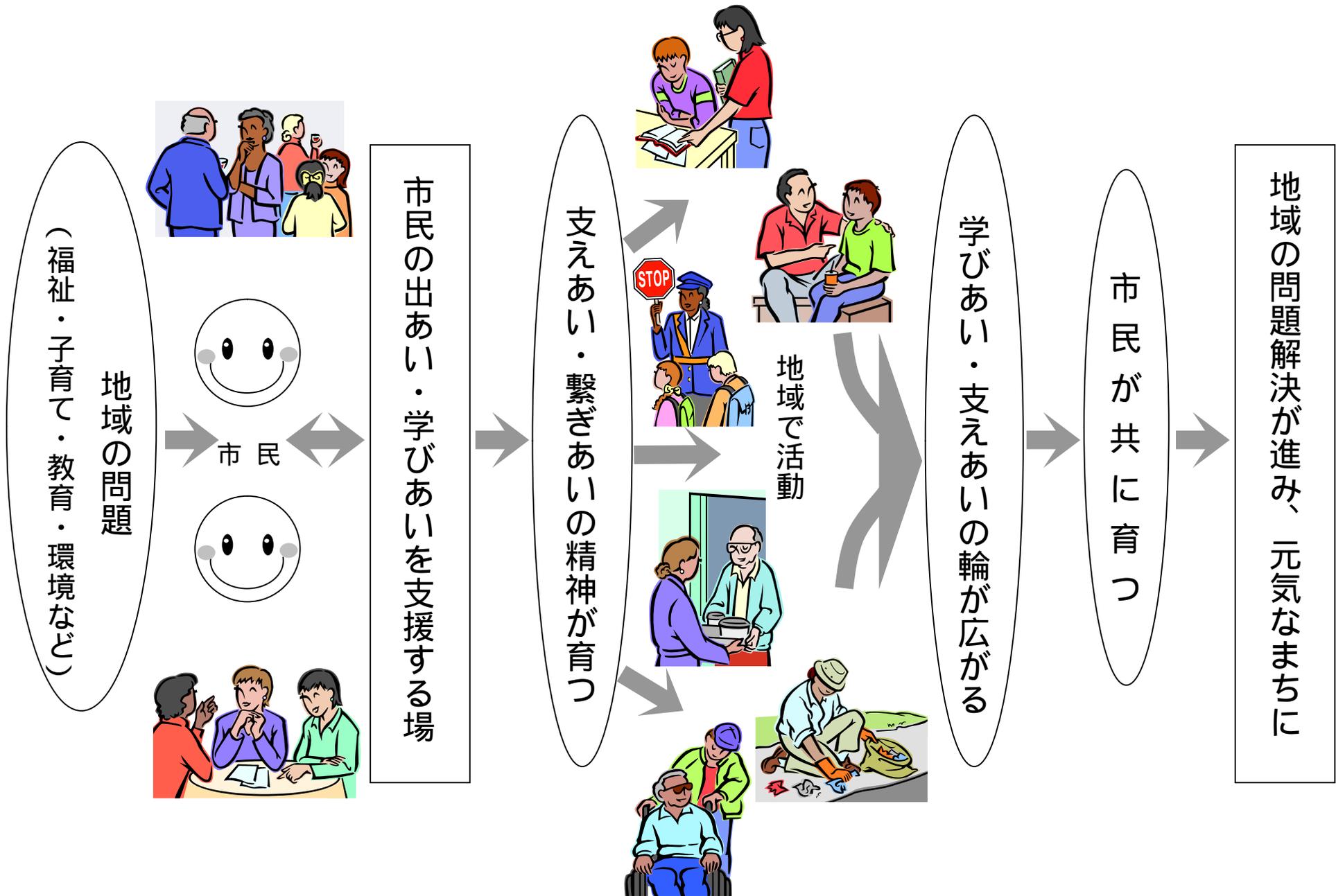
“ひと咲き まち咲き あまがさき”

2. 目指す施設像

「市民が出あい、学びあい、支えあい、繋ぎあい、まちが元気になる施設」

複合施設では、公民館が提供する空間と時間を通して、たくさんの市民が出あい、共に学びあい、社会のなかで支えあう文化を育みながら、多くの「まちづくりを担う人材」が生まれ、相互に繋ぎあうことによってさらなる出あいが生まれることを期待します。そこで、この新たな施設を拠点として、市民の学びと地域の問題解決への取組を循環させながら、「まちが元気になる」仕組みづくりを目指します。





そのためには

「市民と学びをつなぐ施設」

「困ったときに頼りになる施設」

「市民と市民をつなぐ一体感のある施設」

になってほしいと思います。

3 . 具体的な施設のイメージ

市民と学びをつなぐ施設

・「いろいろなことを学びたい・体験したい」

いろいろな社会・地域の問題を取り上げた「学び」、「体験」の場を通じてさまざまな人が出あえる機会をつくり、そこで支えあいやつながりが生まれ、そのなかで中心的人材が育ち、さらに地域での活動の輪が広がるよう支援する。

・「学んだこと・体験したことを活かしたい」

市民が「学び」、「体験」したことを広げていくように、まちづくりを担うコーディネーターの役割を担い、人と人とのつながり、人と地域のつながりを創出し、いろいろな活動や市民の育ちを支援することによって、まち全体に支えあいの精神が広がり、元気なまちになる仕組みをつくる。



困ったときに頼りになる施設

- ・「自分の問題を解決したい」

いろいろな市民の活動についてスタッフがサポートしたり、一緒に考えたりすることができる
とともに、関連窓口を案内するなど問題解決につなげる。

- ・「地域の問題を解決したい」

協力できる団体や仲間に関する情報を提供し、市民同士が支えあうことなどによって問題解決
につなげる。

- ・「災害時に活用したい」

隣接する学校と併せて、津波など一時避難場所をはじめ、災害時に活用できる施設とし、市民
の安全を守る。



市民と市民をつなぐ一体感のある施設

・「気軽に立ち寄りしたい」

いろいろな世代が目的がなくても気軽に立ち寄りたくなる雰囲気のエントランスをつくり、飲み物を飲んだり、話したりいろいろな情報を得ることができる居心地のよい空間をつくる。

・「みんなの活動が見たい」

学び、体験している市民の様子が分かるような施設にすることで、新たな学び、体験、異世代交流のきっかけとする。

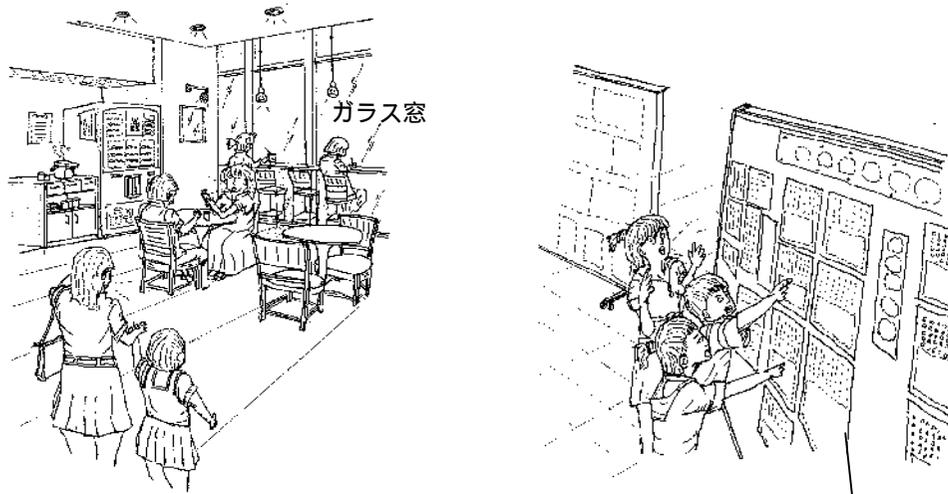
・「あまがさきについて知りたい」

図書や広報誌、インターネットなどのメディアから地域や団体活動などの情報を得ることができる。施設の運営者や利用者が協力しあい工夫して、魅力的な情報を発信することで多くの市民が集まる。

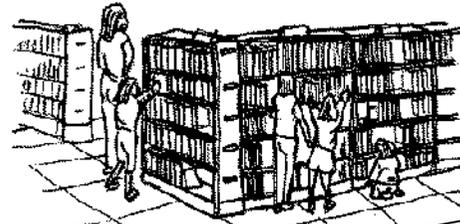
・「いろいろな人と交流したい」

多くの市民で賑わっているエントランスなどで、居合わせた人との出会いによって、いろいろな世代の間で交流が生まれ、新しい活動に繋がる。

〔イメージ図1〕～気軽に立ち寄りたくなる施設～



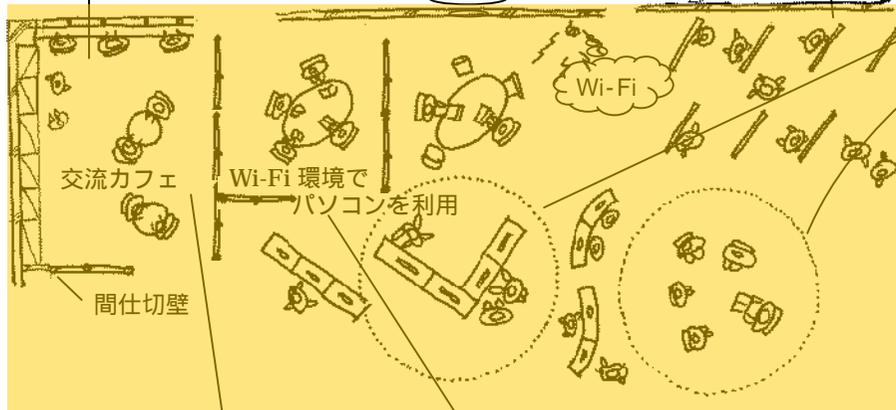
図書コーナー
気軽に立ち寄って利用できる図書コーナー



絵本読み聞かせ
親子連れにとっても魅力的な空間

～にぎわい感のあるエントランス～

市民ギャラリー



例えば、地域団体などが運営する
ような地域密着型のカフェ

例えば、若者などがネットを使って
自分達の活動などの情報を発信する

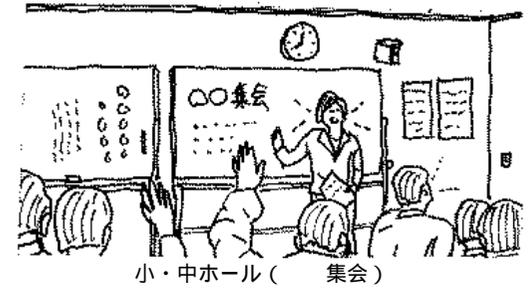
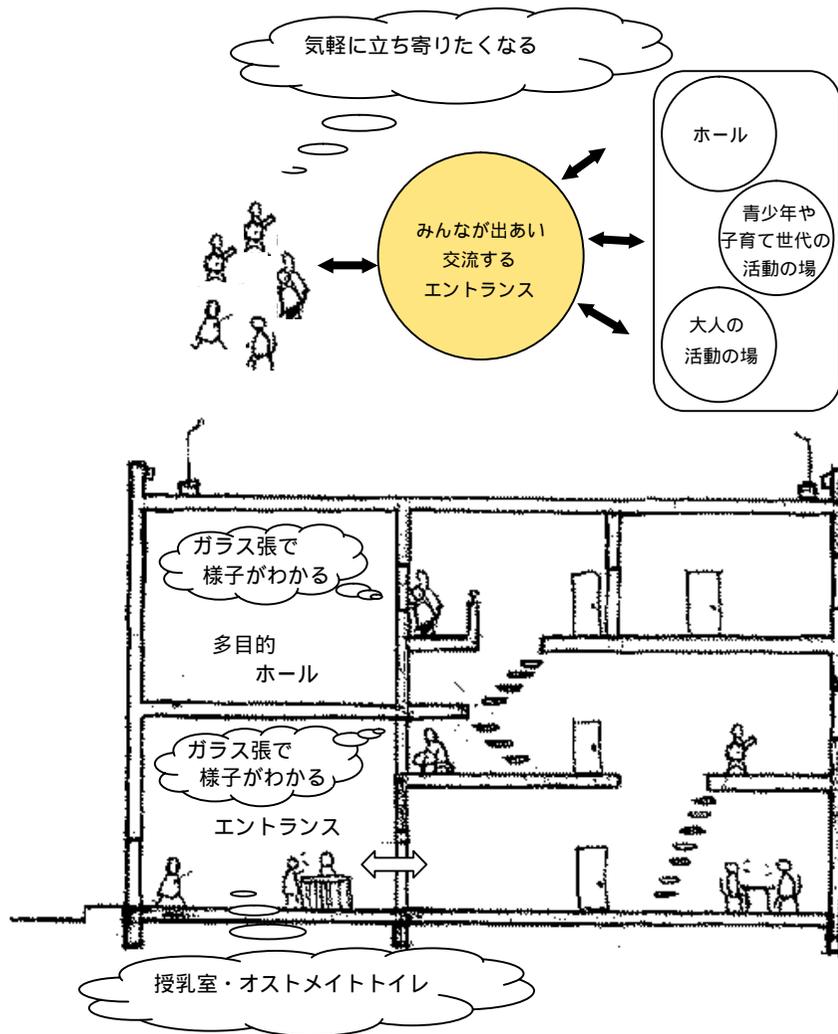
開放感のあるガラス張
ロビー

ロビーでのイベント



芝生広場

〔イメージ図2〕～市民と市民をつなぐ一体感のある施設～



おわりに

- ・ 市民会議では、以上のように、梅香小学校敷地複合施設について「市民と学びをつなぐ」、「困ったときに頼りになる」ことを目指し、そのために「市民と市民をつなぐ一体感のある」施設となるよう機能を整備することが必要であると考えています。
- ・ 今後、こうした機能の備わった施設が、この複合施設を先駆けとして、地域コミュニティを担う公共施設全体に広がり、まさしく「市民が出あい、学びあい、支えあい、繋ぎあい、まちが元気になる施設」として十分に活用されるよう、適正な利用方法や費用負担のあり方なども含めて検討し、まちづくりを支える拠点づくりに取り組むことを強く望みます。
- ・ また、併設する尼崎養護学校との連携、交流が行えるようお互いの施設の配置、オープンスペース等の配置についても考慮するとともに、梅香小学校があった証を後世まで伝えるものを残してほしいと思っています。

以 上

市民会議の開催経緯

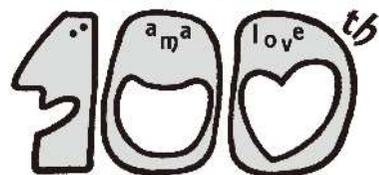
	開催日時	内容	開催場所
第1回 市民会議	平成26年 6月10日(火) 午後4時～6時	委嘱状交付 市民会議設置運営要綱について オリエンテーション ・自己紹介 ・尼崎市から「公共施設の最適化に向けた取組」、「生涯学習と公民館が果たす役割」等について説明	尼崎市議会棟 第3委員会室
第2回 市民会議	7月1日(火) 午後4時30分 ～6時30分	複合施設のあり方について ～意見交換～	尼崎市議会棟 第2委員会室
第3回 市民会議	8月11日(月) 午後5時～7時	複合施設のあり方について ～施設機能等について意見交換～	尼崎市議会棟 第2委員会室
第4回 市民会議	9月2日(火) 午後4時30分 ～6時30分	複合施設のあり方について ～意見のまとめ～	尼崎市議会棟 第3委員会室
第5回 市民会議	9月26日(金) 午前10時～12時	複合施設のあり方について ～意見のまとめ～	尼崎市議会棟 第3委員会室

梅香小学校敷地複合施設のあり方市民会議構成員

(敬称略)

	氏 名	役職等
コーディネーター	久 隆浩	近畿大学総合社会学部教授
学 識 経 験 者	佐藤 智子	東京大学政策ビジョン研究センター・特任研究員
地 域 住 民 代 表	高山 嘉之	繁栄社会福祉連絡協議会
地 域 住 民 代 表	廣岡 美津子	東難波社会福祉連絡協議会
社会教育関係者	川岸 邦充	社会教育委員
社会教育関係者	石田 すぎえ	公民館運営審議会
公 募 市 民	勇 正一郎	-
公 募 市 民	太田垣 亘世	-
公 募 市 民	大原 一憲	-
公 募 市 民	原田 明	-

知れば知るほど
“あまがすき”



尼崎市市制100周年

尼崎市資産統括局資産経営部

公共施設担当

平成26年10月22日作成